

## 【 駅前公共施設の愛称・ロゴデザイン制作のための面談概要 】

### <開催概要>

- ・現在、施設の基本理念の実現と市民に親しまれ愛される施設を目指し、イメージアップや認知度の拡大を図るため、愛称・ロゴデザイン等の制作を進めています。
- ・制作は、東北芸術工科大学デザイン工学部グラフィックデザイン学科（原高史教授ゼミ）にお願いしています。
- ・このたび、制作の参考とするため、東北芸術工科大学による市長等へのヒアリングが行われましたので、その概要をお知らせします。

### <開催日>

- ・令和元年10月4日（金） 11時～12時 市役所本庁舎

### <出席者>

- ・東北芸術工科大学 原高史教授、須藤鈴架副手、学生2名
- ・市側 市長、副市長、教育長、関係部課長・職員

### <主な概要>

#### ○市の施設に対する思い・期待

- ・酒田には港があって、港を使って人と物が行き来して街が発展してきた。そういう歴史を踏まえて、酒田らしさでもって、人が育つ場所になってもらいたい。
- ・コミュニケーション、交流、対話などによって、人が育つ。この施設をいろいろ活用することで、人が育つ風土がこの地域に根差してほしい。そういうのが外にアピールでき、何となく感じてもらえるようなネーミングやロゴであればいい。
- ・自分の大切な時間を過ごしてみたいなと思わせるような施設になってくれればと思っている。
- ・高校生がすごく期待している。高校生が親しみやすい名称になってもらったら有難い。
- ・ここで人が交流して育てて行くということだと思っている。
- ・ビジネスマン同士が語りあって、アイデアをぶつけ合って何かを生み出すような場所にしたい。意見とか情報とかを交換しあって、自分がやりたいことのヒントを得られるような施設になってほしい。
- ・遠慮なく対話をしたり議論したりする中で自分の進む道を発見できるような場所、自己実現のための施設になってほしい。
- ・ポートは岸壁でハードものなので、それ自体に基本、生命がない。シップとかそこに乗っている船乗り、つながる航路というものは、血液みたいなもので、そういうものが本質なのかもしれ

れない。

- ・「湊」という字の「奏」は、人が奏でるものであってそんなイメージの「みなと」であってほしい。
- ・これまでシンポジウム等を通じて印象に残っている言葉として、子供の声は未来の声、本が人と街をつなぐ、無難なものに感動は無い、ということ。
- ・市民にとって敷居が低い図書館を作っていきたい。
- ・図書館はみんなを見ている、図書館を人格的（擬人化）な視点で見て、眼差しを感じさせたい。
- ・ここに優しさがあって、ここで何か紐解いてみたい、友達と会ってみたい、何か寄り添うという感じの施設。
- ・地元の方にもあまり知られていないようなことを学べて、外に自慢できるような発信の場所になったらいい。
- ・北前船の湊と、最上川舟運の湊という役割で、人や物の行き来が盛んだったというのが歴史である。ここもそういう役割を果たすべき場所なのかなと思う。
- ・今日出席の学生さんの若い人達が2度、3度と行ってみたいと思える施設は、どういう施設だろうか。そういう思いが含まれても良いと思う。
- ・酒田の高校生の就職県内定着率が低い。この地域に残る、この地域で自分が活躍するという意識が芽生えるようなそういう拠点の一つになってほしい。
- ・高校生とか若い人達をターゲットにしたときに、意識をがらりと変えられるようなインパクトのある施設にしていきたい。そういうきっかけになるような愛称やロゴがあれば。
- ・人の成長という意味では、いろんなつながりをこの施設で見出せるような、街の魅力もこの施設を通じてつながりを見出せるようなものであったらと思う。

## ○東北芸術工科大学からのコメント

- ・高校生の声を聞いていると、あの施設に大いに期待している。街全体が元気になるようなイメージ、対象を若い人達に絞った形で作っていききたいというイメージとしてはある。
- ・アートの的であり、デザインの的でありという要素を入れたい。
- ・落ち着いたものよりも、少し自由な空気感だとか、動きがあるようなものも良いかもしれない。
- ・ロゴというものは、いろんな意味が含まれていくもので、何か良いもの、気になるもの、何なんだあれはと引っかかるものというのは、何かたくさんものを含んでいる。
- ・酒田にまだまだ知らない部分、内でも外でも新しいものがある。酒田の街自体が何か言いたそうにしている感じがある。まだまだ魅力があるようなので、その魅力探しを行っていききたい。